

PUBLICATION NUMBER : 63057508
PUBLICATION DATE : 12-03-88

APPLICATION DATE : 28-08-86
APPLICATION NUMBER : 61200059

APPLICANT : MIKIMOTO SEIYAKU KK;

INVENTOR : OKUNO YUKIAKI;

INT.CL. : A61K 7/00

TITLE : FILM-FORMING COSMETIC PACK



ABSTRACT : PURPOSE: To provide a safe film-forming cosmetic pack absolutely free from cosmetic pollution and consisting of a 1st agent composed of a clear gel of a polyglycerol fatty acid ester and a 2nd agent composed of an aqueous solution of a clear film-forming agent.

CONSTITUTION: The objective film-forming cosmetic pack is a combination of (A) a 1st agent composed of a clear gel produced by adding an oil such as squalane, liquid paraffin, etc., and a polyhydric alcohol such as glycerol, propylene glycol, etc., to a polyglycerol fatty acid ester of formula (n is 0-15; R is acyl or H) (e.g. decaglycerol monostearate) and (B) a 2nd agent composed of an aqueous solution of a film-forming agent such as polyvinyl alcohol, polyvinyl pyrrolidone, carboxyvinyl monomer, etc. The cosmetic pack is used by applying the 1st agent to the surface of skin, applying the 2nd agent on the 1st agent, drying the agents and peeling the agents after a specific period.

COPYRIGHT: (C) JPO

⑫ Int. Cl.

A 61 K 7/00

識別記号

庁内整理番号

7306-4C

⑬ 公開 昭和63年(1988)3月12日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全5頁)+/

⑭ 発明の名称 皮膚形成型化粧用バック剤

⑮ 特 願 昭61-200059

⑯ 出 願 昭61(1986)8月28日

⑰ 発 明 者 上 田 清 資 三重県伊勢市宇治浦田町669-76
⑱ 発 明 者 宮 本 敏 夫 埼玉県越谷市青山町4-14-7
⑲ 発 明 者 呉 野 行 昭 三重県度会郡二見町山田原507
⑳ 出 願 人 御木本製薬株式会社 三重県伊勢市黒瀬町1425番地
㉑ 代 理 人 弁理士 戸田 親男

御木本

明 細 書

1. 発明の名称

皮膚形成型化粧用バック剤

2. 特許請求の範囲

次の一般式



(且し式中、nは0~15、Rはアシル基又は水素原子を異なす)

で示されるポリグリセリン脂肪酸エステルを含有する第一剤と、皮膚形成剤を含有する第二剤と、から成ることを特徴とする皮膚形成型化粧用バック剤。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、化粧品、更に詳細には皮膚形成型用バック剤に関するものである。

(従来の技術)

乾燥後に皮膚を形成しないタイプのバック剤に比して、皮膚形成型バック剤は、皮膚面から蒸散

する水分をバックの遮蔽効果によってバック層の下にとどまらせ、以って表面角質層を柔軟化せしめると同時に皮孔を上げ、その結果バック中の有効成分が容易に皮膚内に浸透することができ、バック本来の効果が強く発揮される。したがって、現在、バック剤としては、このような皮膚形成型のバック剤が多用されている。

しかしながら、これら既知のバック剤は、後記するようにいくつかの欠点を有している。

本発明は、ポリグリセリン脂肪酸エステルを使用するとともに、従来単一剤であったバック剤を二剤となして、これらを解決するのに成功したものであるが、このようなことは従来未知の全く新規な技術である。

(発明が解決しようとする問題点)

従来の化粧用皮膚形成型バック剤は、皮膚の強度の関係で、乾燥した後皮膚から剥離するのが容易でなく、痛みさえも伴うものであった。そのうえ官能面でも、しっとりした感覚に乏しいのみでなく、塗布した後の乾燥したか否かの確認が非常

に困難であった。

また、安定性の面では、皮膚形成剤として多用されているポリビニルアルコールは、降伏値を持たないニュートン流体であるために、油剤の浮上等の分離現象が生じ易いという欠点は避けられなかった。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、上記した従来の皮膚形成型バック剤の欠点である。

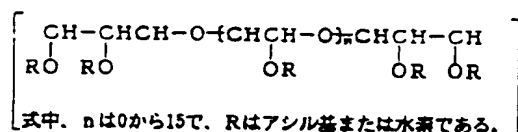
- (1) 皮膚より剥離する時にいたい。
- (2) しっとり感が弱い
- (3) 乾燥したかどうかの確認が困難
- (4) 油剤の浮上等の分離現象

を一挙に解決するためになされたものである。

そのために各方面から鋭意研究をしたけれども成功に到らず、発想の転換の必要に迫られた。そして発想を180°転換して、従来の1成分系にとられていたので所期の目的が達成されないとの観点にたち、バック剤をいくつかの成分系に分ける必要があること、この多成分系バック剤を完成

白濁し、乾燥すると透明になり剥離時期が明確な、しっとり感の強い、剥離時いたくないバック剤となるのである。

まず、第一剤のゲルのポリグリセリン脂肪酸エステルは、次式で表される。



構造を有し、この範囲でゲル形成能が高くまた透明感があるゲルが形成される。またこの物質は食品添加物であるので、安全性に全く問題はなく、化粧品公害のおそれは全くない。そのうえ、本発明に係るバック剤の該エステル以外の要剤は、いずれも、化粧品において既に使用が認められているかないしはその安全性が確認されているものであるから、本バック剤は、化粧品公害の全くない極めて安全なものである。

第一剤の透明ゲルは、上記エステルのほか、油剤及び多価アルコールから成るものであるが、油

するには従来未知の新規な成膜剤を開発する必要があることを認めた。

そして、上記したこれら2つの必要性を解決するために、化粧品業界はもとより、医薬、食品、その他化学関係の業界において広くスクリーニングを行った結果、新規成分としてポリグリセリン脂肪酸エステルを見出した。そして、バック剤を皮膚形成剤成分と他の成分との2成分系に分けることにより、はじめて所期の目的が達成できるとの新知見を得た。

本発明は、この有用にして新規な知見を基礎とし、更に研究、検討の結果、遂に完成されたものであって、皮膚形成型バック剤を2剤に分け一方を(ポリグリセリン脂肪酸エステル) — (油) — (多価アルコール)のゲルとし、他の一方を皮膚形成剤の水溶液とすることによって上記のバック剤の問題点を一挙に解決したものである。

このバック剤は、まず第一剤の透明ゲルを顔面に塗布し、つづいて第二剤の透明皮膚形成剤をその上に塗布する。このとき二つの液が混合されて

剤としては、化粧品に使用される固体状、ペースト状ないし液体状の化粧用油剤が、すべて使用できる。例えば、化粧用液体状油剤としては、スクワラン、流動パラフィン、プリスタンなどの化粧用液体状炭化水素類；ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸イソプロピル、リシノレイン酸オクチルドデシルなどの化粧用液体状エステル、ヤシ油、ホホバ油、オリーブ油、アルモンド油、タートル油、オレンジラッフィー油などの化粧用液体状動植物油、カプリルカプロン酸トリグリセライドなどの化粧用液体状トリグリセライド、これらの単独或いは2種以上の混合物が挙げられる。ただ、固体或いはペースト状油剤も利用できるが油剤全部をこれに置き換えるとゲルの硬さが高すぎて使用にたえないのは当然である。

また、油剤は単一の原料を用いるよりも炭化水素系のものとトリグリセライドのくみあわせの方がよりよいゲルが形成される。

多価アルコールはグリセリン、1,3ブチレングリコール、プロピレングリコール、ジグリセリン、

ジプロピレングリコール、ポリエチレングリコール(分子量が200~600)等のほかにソルビトール、マルビット等も利用できる。しかしながらグリセリンが一番ゲル形成がよい。多価アルコールは、単用してあるいは2種以上を併用してもよいことは当然である。

更に水を添加する場合には、油剤の種類及び使用量にもよるが、一般的には約10~20重量%以上使用すると、ゲル性又は透明性が損われるので注意を要する。ゲル化に好適な水分量は、約0.5~8重量%であり、更に好ましい水分量は約2~5重量%である。

これらに加えて、ビタミンE、ビタミンA、ジパルミチン酸等油溶性薬剤を添加すると、バック剤としての効果を更に高めることができる。

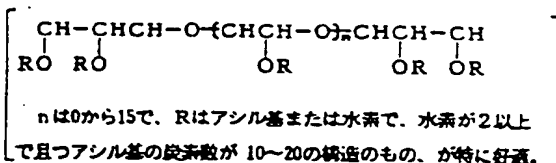
第一剤を調製するには、常法によって、薬剤の種類により加温が必要なものは加温し、熔融ないし流動性を高めながら他の薬剤を加えて十分に混合し、冷却すればよく、このようにして透明なゲルが得られる。各薬剤の混合比率は、例えば次の

価アルコール、防腐剤等を適宜添加することも可能である。水溶性薬剤としてはビタミンC、その誘導体、アロエエキス、ローヤルゼリー、ブラセンタエキス、蜂蜜、黒糖、その他動植物成分、コンキオリン加水分解物等が例示される。コンキオリン加水分解物とは、コンキオリンの加水分解物すべてを指すが、例えば、コンキオリンを塩酸分解した後塩酸を除去し、次いで限外濾過したり、あるいは、コンキオリンを硫酸分解した後強酸性pHとなるよう第1段の中和を行い、次いで中性付近の弱酸性pHとなるよう第2段の中和を行い、そして生成した沈澱物を除去してなるものであって、皮膚のカブレや発赤の原因となる高分子ペプチドを除去してなる極めて安全な整肌効果のすぐれた化粧品原料である。

本発明に係るバック剤は、透明ゲルからなる第一剤と透明皮膚形成剤からなる第二剤とから構成される新規な2成分系のバック剤である。使用に当っては、先ず、第一剤を皮膚表面に塗布し、続いて第二剤をその上に塗布し、乾燥して必要時間

とおりである：

次式で示されるポリグリセリン脂肪酸エステル0.5~30、好ましくは2~15重量%；多価アルコール0.5~40、好ましくは5~25重量%；化粧品用油脂20~95、好ましくは50~80重量%；水20重量%以下。混合比率は、通常は上記範囲内で適宜選択するが、必要ある場合には上記範囲に限定されることがなく、必要な混合比率を採ってもよい。



第二剤は皮膚形成剤の水溶液であり、皮膚形成剤としては、ポリビニルアルコール、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルモノマー、カルボキシメチルセルロースその他が単用又は併用できる。皮膚形成剤の含有量は0.5~50、好ましくは2~30重量%である。

第二剤には更に、水溶性薬剤、エタノール、多

経過後に剥離すればよいのである。

以上、本発明を、実施例及び試験例について説明する。

実施例-1

第一剤

A) デカグリセリンモノステアレート	10重量%
グリセリン	15重量%
B) スクワラン	50重量%
カプリルカプロン酸トリグリセライド	20重量%
精製水	5重量%
A)を加温溶解し、B)を攪拌しつつゆっくり加えて冷却する。	

第二剤

ポリビニルアルコール	15重量%
グリセリン	5重量%
エタノール	5重量%
防腐剤	適量
ビタミンC誘導体	適量
精製水	75重量%

実施例-2

第一剤

A) デカグリセリンモノミリステート	15重量%
1,3ブチレングリコール	5重量%
グリセリン	15重量%
B) 流動パラフィン	45重量%
ミリスチン酸オクチルドデシル	15重量%
精製水	5重量%

A) を加温溶解し、B) を攪拌しつつゆっくり加えて冷却する。

第二剤

ポリビニルアルコール	12重量%
酢酸ビニルエマルジョン	10重量%
PEG1000	5重量%
エタノール	5重量%
防腐剤	適量
ビタミンC誘導体	適量
ブラセンターエキス	適量
精製水	68重量%

実施例-3

第一剤

A) トリグリセリンジステアレート	12重量%
グリセリン	15重量%

プロピレングリコール	5重量%
B) スクワラン	50重量%
オリーブ油	6重量%
2エチルヘキサン酸トリグリセライド	7重量%
精製水	5重量%

A) を加温溶解し、B) を攪拌しつつゆっくり加えて冷却する。

第二剤

ポリビニルアルコール	12重量%
酢酸ビニルエマルジョン	12重量%
カルボキシメチルセルロース	10重量%
ナイロンパウダー	5重量%
防腐剤	適量
ブラセンターエキス	適量
精製水	61重量%

試験例

18～20才未満、20代、30代、40代及び50才以上の女性パネル、それぞれ、17名、20名、20名、20名、10名の計87名に、本発明に係るバック剤（実施例1～3）及び市販されているバック剤（A、

B、C社）をそれぞれ顔面に使用して貰い、しっとり感、剥離時の痛み、乾燥時の判定の容易について官能試験を行い、次表の結果を得た。

		実施例-1	実施例-2	実施例-3	A社	B社	C社
しっとり感	強い	52	46	37	19	19	12
	普通	31	35	35	12	62	34
	弱い	4	6	15	56	6	41
剥離時のいたみ	いたい	4	0	7	31	62	54
	やや気になる	24	20	19	51	25	21
	全くいらない	59	67	61	5	0	12
乾燥時の判定	明確	89	73	84	25	0	4
	普通	3	14	2	50	27	39
	困難	1	0	1	12	60	44

上記結果からも明らかなように、本バック剤は、すべての試験項目において卓越していることが明確に確認できる。

（発明の効果）

本発明は、特定のポリグリセリン脂肪酸エステルを新たに配合し且つ2成分系に敗えてしたことにより、従来から問題となっているバック剤の欠点が一挙に解決できるという新規にして卓越した効果を奏するものである。

すなわち、このバック剤はまず第一剤の透明ゲルを顔面に塗布し、つづいて第二剤の透明皮膚形成剤をその上に塗布する。このとき二つの液が混合されて白濁し、乾燥すると透明になり、したがって剥離時期が明確になるのである。

また、本発明に係るバック剤は、上記のようにまず第一剤を塗布するので、第二剤を塗布した後も第一剤が皮膚上に薄い皮膜を形成しており、したがって、しっとり感が向上するとともに、これを剥離するとき刺激がなくなり、剥離時の痛みもなくなるのである。

そのうえ、本発明においては、バック剤の2成分系に分離したために、油剤の浮上等の分離現象が防止されるという著効も奏され、したがって、従来は使用しにくかったポリビニルアルコールも

反型形成剤として自由に使用することが可能となったのである。

更にまた、従来からのバック剤に比して、構成剤の配合量、配合の種類が大巾に増加するため、デリケートな調剤が可能となり、市場の要求に対してきめ細かく対応することが可能となった。特に従来は困難であった油分の調整が、本発明によってはじめて可能となり、この点においても本発明は非常にすぐれているものである。

代理人 弁理士 戸 田 親 男

昭和63年10月31日

昭和61年特許願第200059号(特開昭63-57508号, 昭和63年3月12日発行 公開特許公報63-576号掲載)については特許法第17条の2の規定による補正があったので下記のとおり掲載する。 (2)

Int. Cl.	識別記号	庁内整理番号
A61K 7/00		7306-4C

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

昭和61年 特 許 願 第200059号

2. 発 明 の 名 称

皮膚形成型化粧用バック剤

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 伊勢市黒瀬町1425番地

名 称 御木本製薬株式会社

代表者 御木本 英隆

4. 代 理 人

住 所 〒105東京都港区虎ノ門一丁目19番14号

邦楽ビル503

氏 名 弁理士(7577) 戸 田 親 男

電話 508-0333

5. 補正により増加する発明の数 なし

6. 補正の対象

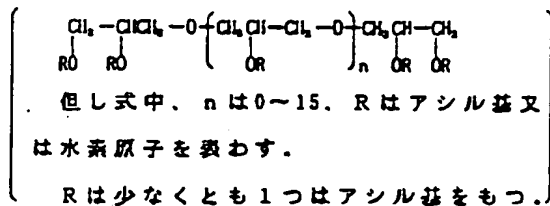
明細書

7. 補正の内容

(1) 特許請求の範囲を別紙のとおり補正する。

(2) 明細書5頁5~9行に「ステルは、次式…高くまた造」とあるを、

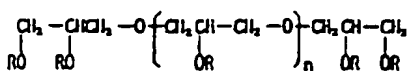
「ステルは、次式で表される。



構造を有し、この範囲でゲル形成能が高くまた造』と補正する。

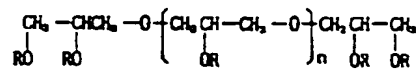
(3) 明細書8頁9行目の構造式を次のとおりに補正する。

『



『2. 特許請求の範囲

次の一般式



(但し式中、nは0~15、Rはアシル基又は水素原子を表わす。Rは少なくとも1つはアシル基をもつ。)

で示されるポリグリセリン脂肪酸エステルを含有する第一剤と、皮膚形成剤を含有する第二剤と、から成ることを特徴とする皮膚形成型化粧用バック剤。』